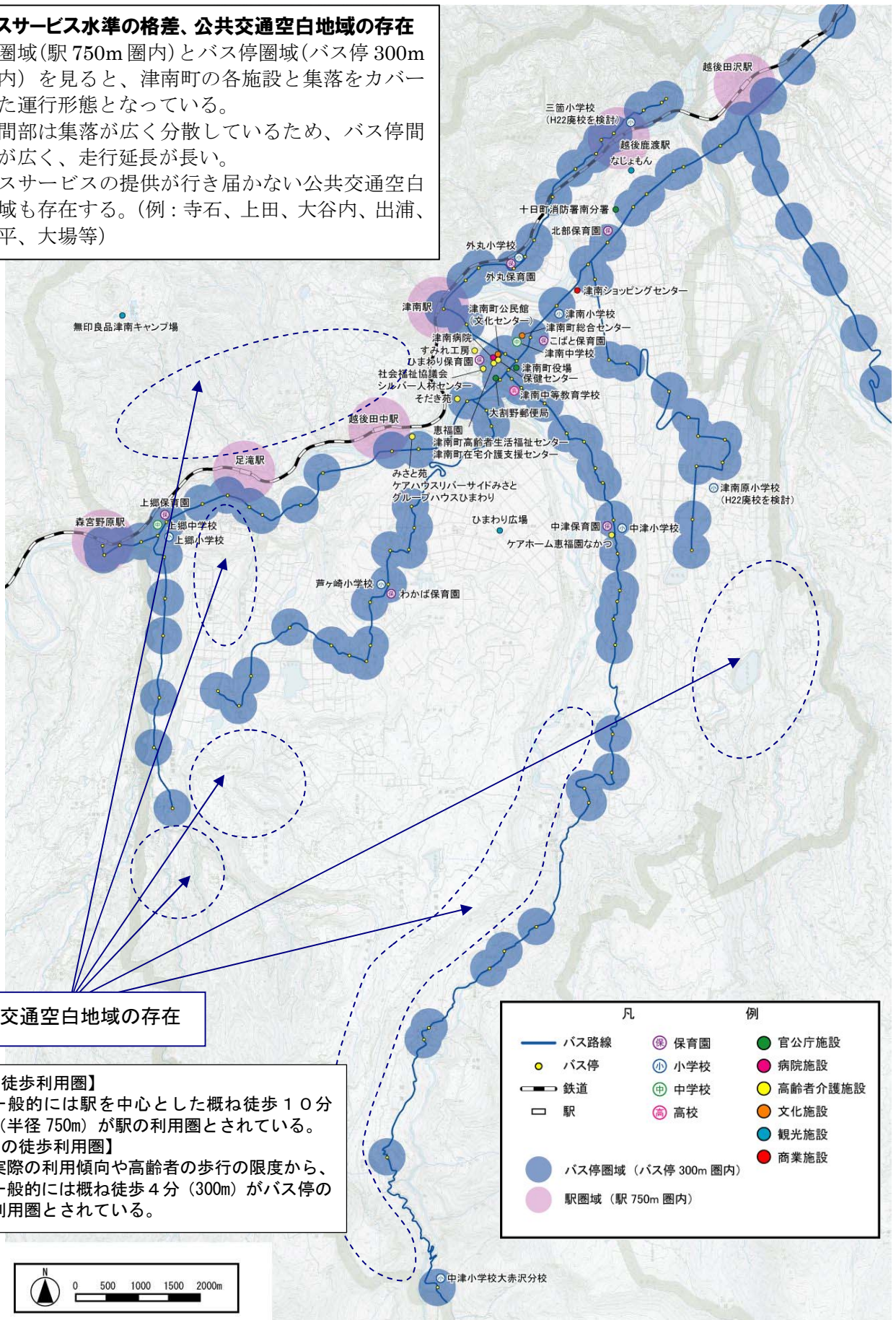


●バスサービス水準の格差、公共交通空白地域の存在

- ・ 駅圏域(駅 750m 圏内)とバス停圏域(バス停 300m 圏内)を見ると、津南町の各施設と集落をカバーした運行形態となっている。
- ・ 山間部は集落が広く分散しているため、バス停間隔が広く、走行延長が長い。
- ・ バスサービスの提供が行き届かない公共交通空白地域も存在する。(例：寺石、上田、大谷内、出浦、所平、大場等)



公共交通空白地域の存在

**【駅の徒歩利用圏】**  
 一般的には駅を中心とした概ね徒歩10分(半径750m)が駅の利用圏とされている。

**【バスの徒歩利用圏】**  
 実際の利用傾向や高齢者の歩行の限度から、一般的には概ね徒歩4分(300m)がバス停の利用圏とされている。

| 凡                     | 例     |           |
|-----------------------|-------|-----------|
| — バス路線                | ● 保育園 | ● 官公庁施設   |
| ● バス停                 | ● 小学校 | ● 病院施設    |
| — 鉄道                  | ● 中学校 | ● 高齢者介護施設 |
| □ 駅                   | ● 高校  | ● 文化施設    |
| ● バス停圏域 (バス停 300m 圏内) |       | ● 観光施設    |
| ● 駅圏域 (駅 750m 圏内)     |       | ● 商業施設    |

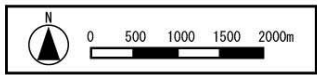


図 16 公共交通 (JR・路線バス) の利用圏域